地 方 社 会 保 険 事 務 局都道府県民生主管部(局) 国民健康保険主管課(部) 都道府県後期高齢者医療主管部(局) 後期高齢者医療主管課(部)

厚生労働省保険局医療課

平成20年度診療報酬改定関連通知の一部訂正について

「診療報酬の算定方法の制定等に伴う実施上の留意事項について」(平成20年3月5日保医発第0305001号)、「基本診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取扱いについて」(平成20年3月5日保医発第0305002号)、「特掲診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取扱について」(平成20年3月5日保医発第305003号)、「特定診療報酬算定医療機器の定義等について(平成20年3月5日保医発第0305007号」、「保険医の使用医薬品(掲示事項等告示第6関係)及び保険薬剤師の使用医薬品(掲示事項等告示第14関係)に係る留意事項について」(平成20年3月5日保医発第0305009号)、「「入院時食事療養費に係る入院時生活療養の実施上の留意事項について」等の一部改正について」(平成20年3月19日保医発0319003号)」、「「「療担規則及び薬担規則並びに療担基準に基づき厚生労働大臣が定める掲示事項等」及び「保険外併用療養費に係る厚生労働大臣が定める医薬品等」の実施上の留意事項について」等の一部改正について」(平成20年3月28日保医発第0328001号)及び「「診療報酬請求書等の記載要領等について」等の一部改正について」(平成20年3月28日保医発第0328001号)について、それぞれ別紙1から別紙8までのとおり訂正するので、その取り扱いに遺漏のないよう関係者に対し、周知徹底を図られたい。

# 診療報酬の算定方法の制定等に伴う実施上の留意事項について (平成20年3月5日保医発第0305001号)

別添1

医科診療報酬点数表に関する事項

第2章 特揭診療料

第3部 検査

第1節 検体検査料

第1款 検体検査実施料

D016 細胞機能検査

(3) 「5」のリンパ球幼若化検査(一連につき)は、Con-A  $\overline{\chi}$   $\overline{\chi}$ 

第4部 画像診断

第2節 核医学診断料

E101-3 ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影

(5) 撮影に当たって造影剤を使用した場合は、区分番号「E 2 0 0」コンピューター断層撮影(C T 撮影)の「注 3」の加算を本区分に対する加算として併せて算定する。

第7部 リハビリテーション

#### <通則>

7 疾患別リハビリテーション料は、患者1人につき1日合計6単位(別に厚生労働大臣が 定める患者については1日合計9単位)に限り算定できる。

当該別に厚生労働大臣が定める患者のうち「入院中の患者であって、その入院する病棟等において早期歩行、ADLの自立等を目的として心大血管疾患リハビリテーション料(I)、脳血管疾患等リハビリテーション料(I)、運動器リハビリテーション料(I)、又は呼吸器リハビリテーション料(I)を算定するもの」とは、訓練室以外の病棟等(屋外を含む。)において、早期歩行自立及び実用的な日常生活における諸活動の自立を目的として、実用歩行訓練・日常生活活動訓練が行われた患者であること。ただし、平行棒内歩行、基本的動作訓練としての歩行訓練、座位保持訓練等のみを行っている患者については含まれない。

### 第9部 処置

#### J038 人工腎臓(1日につき)

(2) 入院中の患者 (介護老人保健施設に入所中の患者を含む。以下この項で同じ) に人工腎臓を行った場合又は特掲診療料の施設基準等の第十一の二に規定する場合(入院中の患者以外の患者に血液濾過を行った場合又はその他特に認める場合)に該当する場合においては、

「2」により算定する。なお、「入院中の患者以外の患者に血液濾過を行った場合又はその 他特に認める場合」とは、入院中の患者以外の患者であって下記の場合である。

- ア 血液透析濾過を行った場合
- イ 生命に危険を及ぼす程度の重篤な出血性合併症(頭蓋内出血、消化管出血)を有する患者に対して血液透析を行った場合
- ウ 重大な視力障害に至る可能性が著しく高い、進行性眼底出血を有する患者に血液透析を 行った場合

第10部 手術

第1節 手術料

第9款 腹部

#### K697-5 生体部分肝移植術

- (1) 対象疾患は、先天性胆道閉鎖症、進行性肝内胆汁うっ滞症(原発性胆汁性肝硬変と原発性硬化性胆管炎を含む。)、アラジール症候群、バッドキアリー症候群、先天性代謝性肝疾患(家族性アミロイドポリニューロパチーを含む。)、多発嚢胞肝、カロリ病、肝硬変(非代償期)及び劇症肝炎(ウイルス性、自己免疫性、薬剤性、成因不明を含む。)である。なお、肝硬変(非代償期)に肝癌(転移性のものを除く。以下同じ。)を合併している場合には、遠隔転移と血管侵襲を認めないもので、当該肝癌が、次の条件により、肝内に長径5cm以下1個、又は長径3cm以下3個以内である場合に限る。また、小児肝芽腫についても対象疾患に含むものとする。
  - イ 術前画像において肝癌と判定される結節性病変は、単純CTで撮影した画像において低吸収域として描出され、造影CTで撮影した画像の動脈相において高吸収域として、門脈相において低吸収域として描出されるものをいい、これを典型的な肝癌と判定する。なお、非典型的な肝癌の場合は、最新の科学的根拠に基づく肝癌診療ガイドライン作成に関する研究班「肝癌診療ガイドライン」に基づき、肝癌と診断された場合に限る。また、造影剤にアレルギーがあり造影CTが実施できない場合は、MRIで代用する。

## 第3章 介護老人保健施設入所者に係る診療無料

(別紙)

(算定できるものについては「○」、算定できないものについては「×」)

項目	小 項 目	併設保険医療機関	その他
基本診療料	初診料	×	$\circ$
	再診料	×	$\circ$
	外来診療料	×	0
特掲診療料			
医学管理等	退院時共同指導料	×	$\circ$
	診療情報提供料(Ⅰ) (注4に限る。)	×	0
	診療情報提供料(Ⅱ)	×	0
	その他のもの	×	×
在宅医療	往診料	×	$\circ$
	その他のもの	×	×
検査	厚生労働大臣が定めるもの	×	×
	その他のもの	0	$\circ$
画像診断		0	$\circ$
投薬	厚生労働大臣が定めるもの	0	$\circ$
	その他のもの	×	×
注射	厚生労働大臣が定めるもの	0	0
	その他のもの	×	×
リハビリテーション	厚生労働大臣が定めるもの	×	×
	その他のもの	0	0
精神科専門療法		×	×
処置	厚生労働大臣が定めるもの	×	×
	その他のもの	0	0
手術	厚生労働大臣が定めるもの	×	×
	その他のもの	0	0
麻酔	厚生労働大臣が定めるもの	×	×
	その他のもの	0	0
放射線治療		0	0
病理診断		0	0

(注) 厚生労働大臣が定めるものは、「特掲診療料の施設基準等」(平成 20 年厚生労働 省告示第63号) の第十六及び別表第十二により規定されているものである。

平成 年 月分				_	<i>,</i> ,,,,,,	-/-			-/-	. – ,,	. •	H 1 1H																	
氏																													
【留意事項】																													
1 月初め(月の途中から入院又は転棟してきた場合には、入院又は転棟時)に必ず患者の状態等に応じて、該当する区分に「〇」を記入することとし、その後状態等が変化し、																													
該当しなくなった場合には、該当日に「×」を記入する 2 頻度が定められていない項目については☆に「C					以陷	といり	態	等の	変化	こがた	なけ	れは	記入	しな	:くて=	し良い	۱۱°												
I 算定期間に限りがある区分																													
医療区分3	期間		1	2	3	4 5	6	7	8	9	10	11	12	13 14	1 15	16	17	18	19	20	21 :	22 2	23 24	25	26	27	28 29	9 30	31
1 24時間持続して点滴を実施している状態	7						ľ				П	П				П											$\exists \Gamma$		
医療区分2	期間		1	2	3	4 5	6	7	8	9	10	11	12	13 14	1 15	16	17	18	19	20	21	22 2	23 24	25	26	27	28 29	9 30	31
2 尿路感染症に対する治療を実施している状態	14																												
3 傷病等によりリハビリテーションが必要な状態	30																												
4 脱水に対する治療を実施している状態、かつ、発熱を伴う状態	7																												
5 消化管等の体内からの出血が反復継続している状態	7																												
6 頻回の嘔吐に対する治療を実施している状態、かつ、発熱を伴う状態	3																												
7 せん妄に対する治療を実施している状態	7																												
経鼻胃管や胃瘻等の経腸栄養が行われており、かつ、発熱又は嘔吐を伴 8 う状態	7			T												П									П	$\prod$			
9 頻回の血糖検査を実施している状態	3				Ī	Ī		Ī		П	$\Box$	П	ΠĪ	Ī		П			ĪĪ		٦ſ	٦Ē	Ī		П	Πſ	ī	Ī	
<b>元 (本) ☆ 90 BB (= 90 I) よとかいって ハ</b>																													
II 算定期間に限りがない区分 医療区分3		☆																											
10 スモン		П																											
11 注1を参照		Ī																											
		, L 1	1	2	3	4 5	6	7	8	9	10	11	12	13 14	1 15	16	17	18	19	20	21 :	22 2	23 24	25	26	27	28 29	9 30	31
12 医師及び看護職員により、常時、監視及び管理を実施している	状態	]	Щ	Щ	<u> </u>  _	_ _	ļĻ	<u> </u>	Щ	Ц	Щ	Ц	ЩĻ	Ļ	Ш	Ц	Ц	Щ	ᆜᆜ	_  _	4	ᆚ	_ _	Щ	Щ	ЩĻ	<u>_</u>  _	Щ	Ц
13 中心静脈栄養を実施している状態			Ш	Щ						Ш	Ш					Ш	Ш	Ш						Ш	Ш				Ш
14 人工呼吸器を使用している状態							IJL				Ш	Ш				Ш									Ш				
15 ドレーン法又は胸腔若しくは腹腔の洗浄を実施している状態																													
16 気管切開又は気管内挿管が行われており、かつ、発熱を伴うな	犬態																												
17 酸素療法を実施している状態						Ī					П					П											Ī		
18 感染症の治療の必要性から隔離室での管理を実施している状	態	Ì				ī		Ī			Ī	Ī				П	Ī				٦Ï				П		ī	誧	Ħ
医療区分2		. ☆			!_		J ; L		1	ш	السا		Ш.			س								11_1	لسا	<u> </u>		السال	ш
19 筋ジストロフィー症		П																											
20 多発性硬化症		İΠ																											
21 筋萎縮性側索硬化症																													
バーキング・病間連病者(流行性核上性麻痹、大脳皮質素療核変性症、バーキング・病(ホーエン・ヤールの重     ステージ3以上であって生活機能耐害液が1度又は国皮の状態に限る。))	症度分類が	lH																											
23 その他の難病(スモン及び1220~1422までを除く。)																													
24 脊髄損傷(頸椎損傷を原因とする麻痺が四肢すべてに認められる場合に 慢性閉塞性肺疾患(ヒュー・ジョーンズの分類がV度の状態に該当する場合																													
25 &.)	1-104																												
26 人工腎臓、持続緩徐式血液濾過、腹膜灌流又は血漿交換療法を実施してに	る状態	┆╚																											
27 注2を参照		Ш																											
28 基本診療料の施設基準等の別表五の三の三の患者				_	_			_		_		١				1				1									
29 悪性腫瘍(医療用麻薬等の薬剤投与による疼痛コントロールが必要な場合)	こ限る。)	1	$\Box$	2	3	4 5	6		8	9	10			13 14	1 15	16	17	18	19 :	20	21 :		23 24	25	26	27	28 29	9 30	31
30 肺炎に対する治療を実施している状態		) ]				7	忙		Ī	Ħ		Ħ				H				瑞					H		ㅠ	司	
at 褥瘡に対する治療を実施している状態(皮膚層の部分的喪失が認められる)	場合又は	) ]	Ш									H		<u> </u>		Н			—  L 	=  -					Н		<u> </u>		
特徳か27川以上に認められる場合に限る。/	Alb eb	J I	믬	믺	ᆜ	ᆜᆫ				Н	Н	H		<u> </u>		Н	Н		ᆜᄔ	뮒	<u> </u>	ᆜᆫ			H		ᆜ		H
32 末梢循環障害による下肢末端の開放創に対する治療を実施している	0 状態	] 1	Щ	<u>Ц</u> І	ᆜᆫ	_ _				Щ	Щ	片		<u> </u>		Щ	Щ		ᆜᆫ	<b>-  </b>	ᆜ	ᆜᆫ	<u> </u>		Н	ЩL	<u> </u>	井	片
33 うつ症状に対する治療を実施している状態		]	Щ	ЩL	_ _	<u> </u>  _		Ļ	Щ	Щ	Щ	Ц	Щ	ļ	Ш	Щ	Щ		ᆜ		ᆚ	ᆜ	_ _	Ш	Щ		<u>_</u>  _		Ц
34 他者に対する暴行が毎日認められる場合			Ш	Щ						Ш	Ш					Ш	Ш	Ш						Ш	Ш				Ш
35 1日8回以上の喀痰吸引を実施している状態		]	$\bigsqcup$				JL		IJ	$\bigsqcup$	$\bigsqcup_{-}$			JĽ				$\bigsqcup [$						Ш	Ш		_L		
36 気管切開又は気管内挿管が行われている状態(発熱を伴う状態を	<u>・</u> 除く。)	]																			$ brack egin{smallmatrix} \egin{smallmatrix} egin{smallmatrix} egin{smallmatrix} egin{smallmatrix} \egi$								
創傷(手術創や感染創を含む。)、皮膚潰瘍又は下腿若しくは足部の蜂巣炎 感染症に対する治療を実施している状態	、膿等の																												
		☆	1	2	3	4 5	6	7	8	9	10	11	12	13 14	1 15	16	17	18	19	20	21	22 2	23 24	25	26	27	28 2	9 30	31
医療区分3の該当	当有無			ال		JĽ										Ď									Ď				
医療区分2の該当	当有無		Ī		jī	jĒ				Ū									jī		jĬ	jĒ	jĒ				j		
医療区分3・2いずれも0(医療区	【分1)	$\prod$	Ī	Πİ	ĪĪ	ĪĒ	ĬĪ	Ī		Ħ	M	Ī	ΠĪ	Ī		П		ΠÌ	٦j		ĪĬ	٦Ē	ĪĒ	П		ΠĪ	ĪĒ	Ī	П
		!	—							—	—'	_	—													—-			—

医療区分・ADL区分に係る評価票

(別紙様式2)